神恵内村

障がい児等支援連携体制整備事業について

神恵内村住民課
課長補佐　奥川　賀久

神恵内村

神恵内村のご紹介

○ 人口 740人（R6.10.31現在）→ 北海道で**２番目**に人口が少ない村

○ 村名はアイヌ語の「カムイ・ナイ」（美しい神の沢）が由来で、「地形が険しく、人が近づきがたい神秘な沢」という意味。
日本海に面する風光明媚な立地であり、「窓岩」や「キス熊岩」といった自然が作り出した奇岩が有名。

→ **漁業**と**観光業**が産業の中心の村。

窓岩

キス熊岩

神恵内村のご紹介

後志管内の北部に位置しており、
近隣には小樽やニセコといった
国内外に人気の観光地。

小樽市、ニセコ・倶知安エリアまで車で1時間程度。
札幌市までは車で２時間程度。

神恵内村の概要

神恵内村の学校・保育所

	園児・児童・生徒数	通常学級数	特別支援学級数
神恵内保育所	10人		
神恵内小学校	21人	３学級	０学級
神恵内中学校	13人 （うち知的：１人） （うち情緒：１人） （うち病弱：１人）	２学級	３学級 （知的：１学級） （情緒：１学級） （病弱：１学級）

【令和６年10月末時点】

障がい児等支援の取組（福祉係）

〇障がい児数
・身体障がい　１名　・知的障がい　１名

〇障がい福祉サービス
岩内町にある「岩宇地区相談支援センター」を利用
・児童発達支援　０名　・放課後等デイサービス　３名

〇巡回児童相談
中央児童相談所より２名派遣、年３回実施

障がい児等支援の取組（保健衛生係）

〇育児相談
子の発育や発達に心配を抱える保護者からの相談に対応

〇乳幼児健診
健診結果を基に、療育を必要とする子どもを把握

〇岩宇地区相談支援センターとの連携
保育所等訪問の利用調整、体験利用の同行等

障がい児等支援の取組（教育委員会）

〇神恵内村特別支援連携協議会
障がい児等の就学にあたり、教育委員会、学校、保健師及び保育士が情報共有を行う

〇外部機関との連携
巡回教育相談、パートナーティーチャー派遣事業、余市養護学校との居住地校交流の実施

〇幼小連携事業
教員が保育所を訪問し、保育士との情報共有及び子どもの様子の確認を行う

障がい児等支援の連携における課題

・各機関がどのような取組をしているか分からない

・地域の社会資源が把握できていない

・各機関の支援のベクトルにばらつきがある

など

障がい児等支援連携体制整備の取組

コーディネーターの片山氏をお招きし、
保小中の引継ぎ、各機関の連携等を
テーマとした研修・グループワークを
１月までに開催予定

参加者
住民課担当職員
教育委員会担当職員
保育所担当職員
小・中学校教員

各機関へアンケートの実施

・「連携推進地域に指定されたから」という理由だけで研修会等を行っても、有意義なものにはならない

・まずは、各機関の現場の担当者が、何を思い、どんな課題を感じているのか、それらを「見える化」するために、アンケートを実施

※アンケート対象者＝小・中学校教員、保育所職員、住民課担当職員、教育委員会担当職員（回答者17名）

Q1.小学校と子どもの支援について連携したことがありますか？
（その他ご意見）

A.　はい　７人

・特別支援連携協議会が、各機関の情報共有の場として機能している

・小中教員の間で認識のずれがある

など

Q2.中学校と子どもの支援について連携したことがありますか？
（その他ご意見）

A.　はい　９人

・特別支援連携協議会での情報共有による連携がとてもよい

・目的が同じでも、所属団体によってアプローチの仕方が違う
　場合もある

など

Q3.村や教育委員会と子どもの支援について連携したことがありますか？
（その他ご意見）

A.　はい　９人

・家庭の情報で学校がなかなか立ち入れないところの情報を
　共有できる

・学校の見解と違った見方をされることがある

など

Q4.保育所と子どもの支援について連携したことがありますか？
（その他ご意見）

A.　はい　８人

・健診の機会を利用することもあるが、今は特別支援連携協議会
　もあるので、情報共有できている

・保育所参観等により、子どもの様子が分かる
・共通認識ができている

など

Q5.所属機関の中で連携の難しさを感じたことはありますか？
（どのようなことで難しさを感じたか、ご記入ください）

A.　はい　５人

・（保小中の）段階による考え方の方向性のズレの修正

・情報交換後、他機関とどのように子どもの支援へつなげるか

・進路

など

Q6.研修に取り上げてほしいテーマ、連携に関する意見、要望、疑問、課題などを自由にご記入ください

・発達障がいなど様々なケースがある中で、切れ目のない支援が求められていると思うので、そこをテーマに連携のあり方をみんなで学び考えたい

・保小中の引継ぎにおいて、より連続性・継続性のある指針について学ぶことができると有意義だ

・現在、神恵内村で必要なのは、互いの立場の理解、共通の認識をもつこと

など

アンケート結果から明確化された、障がい児等支援における各機関の連携の課題

・認識のずれ
・アプローチの仕方が違う
・共通認識
・考え方の方向性のズレ
・切れ目のない支援
・連続性・継続性
・互いの立場の理解
・進路

など

障がい児等支援連携体制整備事業の取組を通して～中間報告

・連携推進地域に指定されたことにより、関係機関が抱える、これまで漠然としていた、連携に関する課題感を明確化する機会が得られた
・課題がある一方で、特別支援連携協議会など既存の仕組みが一定の成果をあげていることも確認できた
・次のフェーズとして、明確化した課題感を解消することをテーマに、関係機関が一堂に会する研修を開催

神恵内村